

2年生の実践（2年次 6月3日）

本時の視点

価値を追求する場において、表情カードを活用しながら自分との関わりでおじさんの気持ちを考える話合い活動を取り入れることにより、価値理解を深め、公共の場できまりを守ろうとする態度を養うことができるであろう。

1. 主題名 みんなが気持ちよく過ごせるように（C 規則の尊重）

2. ねらいと資料

（ねらい） 公共の場では、きまりを守り、みんなが気持ちよく過ごせるようにしようとする態度を養う。

（資料名） 「おじさんのてがみ」

（出典；文溪堂 「2年生のどうとく」）

3. 主題設定の理由

（1）価値観

本主題は、学習指導要領の内容「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の「規則の尊重」における第1学年及び第2学年の「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」を受けて設定されたものである。これは、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容項目である。これは、第3学年及び第4学年の「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」さらに、第5学年及び第6学年の「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」に発展していく。

この時期の児童は、まだ自己中心性が強く、周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。また、身の回りの公共物や公共の場所の使い方、過ごし方などについてどうするのがよいか、そしてそれはなぜなのかといった理解は十分とは言えない。

人間社会は、人格としての個人と個人が関わり合いながら生活を共にするところに成り立つ社会集団である。そこには、規範や価値観が存在するが、社会全体や他人のことを考えず、もっぱら個人の利害損得を優先させる社会的風潮のある現代である。そんな中で児童が他人と協調しつつ自立的に社会生活を送れるようになるためには、低学年の段階から、社会生活上のルールや基本的なモラルなどの倫理観を、具体的な場面を通して指導することで価値理解につなげ、育てていく必要がある。そこで本時では、公共の場においてきまりを守ることが自分も周りの人達も気持ちよく過ごせるということに気づき、それを実践していこうとする態度を養えるであろうと考える。またそのことは、本校の研修テーマ「ともによりよく生きようとする児童の育成」につながるものと考えられる。

（2）児童観（児童数25名）

本学級の児童は、時や場所に応じて静かにする、廊下は右側を歩くなどみんなでする場所の基本的なきまりは理解している。また、教室内のごみを拾ったり、準備や片付けを手伝ったりしている子を褒めると、周りの子も進んで行くようになる。しかし、褒められるからやる、というように行動は他律的で、自ら自発的に行う子はまだ少ない。また、一人だときまりを意識できている子も友だちと一緒にになると、ついふざけてしまったり、我慢

ができなかつたりするなど、きまりを守れない場面も少なくない。しかし、相手意識を持たせると、直そう・やめようと意識できる子も多い。

このような実態から児童は、様々な学習や体験を通して、人に迷惑をかけないようにしようという気持ちは育ってきているものの、公共の場でのきまりを守ることの大切さについてじっくり考え、深めることができているとは言えない。

そこで本時では、人に迷惑をかけないことの大切さや難しさに着目させながら、価値理解を図っていく。そして価値に照らして、自己理解を深めるために、周りの人の気持ちを考え、きまりを守ることよさと難しさを自分との関わりで考えさせていくことを通してみんなが気持ちよく過ごせる態度を養いたい。

(3) 教材観

いろいろな人が使用する電車の中では、乗っているそれぞれの人がそれぞれのことをしている。子どもたちにとっては「楽しい遠足に行くための乗り物」であるため、友だちと一緒に乗っている乗り物は、遊具のような感覚にもなりがちである。誰もが騒がしくなることを想像したであろう。そう思った中の1人のおじさん。このおじさんの「いやだな」という気持ちから「ゆかいだな」という気持ちに変化した理由に気付かせる発問を取り入れることで、公共の場においてきまりを守ることが人に迷惑をかけないことにつながるという価値理解を深めさせていく。そして、人の迷惑にならないようにすることよさと難しさを考えさせる活動を通して、価値理解や人間理解を含めた他者理解を図っていく。子どもたちの行動を通して、公共の場できまりを守ることが周りの人もいい気持ちにさせることになり、人に迷惑をかけないということに気付かせることのできる資料である。

4. 指導方針

〈研修主題に迫るために〉

○自分の思いや考えをみんなの前で発表したり、友達の考えを聴いたりすることで様々な考え方があることに気づき、共に学び合えるような支援をしていく。

〈事前〉

○校外学習で施設内を使用する際や、遊具を使うとき、自分の気持ちを優先するのではなく、友だちや他の学校・幼稚園などの子どもに嫌な思いをさせないよう順番や使い方など確認する。

○「スリッパそろえチャレンジ」を引き続き行うことで周りの人のいい気持ち、自分がしてもらったことのいい気持ちを実感させていく。

○日頃、児童が気をつけてできた行為を、「たからばこ」として宝を増やし、紹介することで、周りの人もいい気持ちになっていることを実感させ常時指導ができるようにする。

〈本時〉

【課題をつかむ】

○公共の場でのきまりを確認することで、ねらいとする価値への方向付けを図る。

○資料を封筒から出し、実際に手紙が来たように提示することで臨場感を出し、その手紙を読みながら場面絵を提示することで、資料への興味・関心を喚起する。

【価値を追求する】

○おじさんの気持ちの変化を上向きの矢印で板書に表すことで、視覚的に捉えやすくする。

○気持ちを考える際、表情カードを使うことでおじさんや周りの人達の気持ちの変化を捉えやすくする。

○おじさんの気持ちが「いやだな」から「ゆかいだな」に変化した理由を考えさせることにより、公共の場において自分が約束やきまりを守ることで周りの人が気持ちよく過ごすこ

とができることに気付けるようにする。

【価値の内面化】

- 振り返りの場面では、「自分が今まで公共の場ではどうだったのか」を考えさせることにより、価値理解だけでなく、自己理解も図っていくようにする。
- 校外学習での行動を称賛してある校長先生からの手紙を終末で読み、自分達が日頃行っていることが、道徳的価値につながっているということを認識させることで、実践への意欲につなげる。

〈事後〉

- 生活科「町探検」で見学に行く先が、公共施設であることを確認してから見学に行くことで実践力を高める。
- 授業で児童が使用するワークシートに家庭欄を設けることで道徳的価値について家庭でも考える時間を設け、連携を図りながら実践意欲を育てていく。
- 「スリッパそろえチャレンジ」だけでなく、「遊び方チャレンジ」や「歩き方チャレンジ」など様々な「チャレンジ」を継続して行う。
- 秋の校外学習で、公共の交通手段を使うことにより、公共の場でのマナーやその使い方を実験することで、実践力を高める。

5. 本時の学習

(1) ねらい 公共の場では、きまりを守り、みんなが気持ちよく過ごせるようにしようとする態度を養う。

(2) 準備 教師：手書きの手紙 表情カード 挿絵の拡大 ワークシート
児童：筆記用具

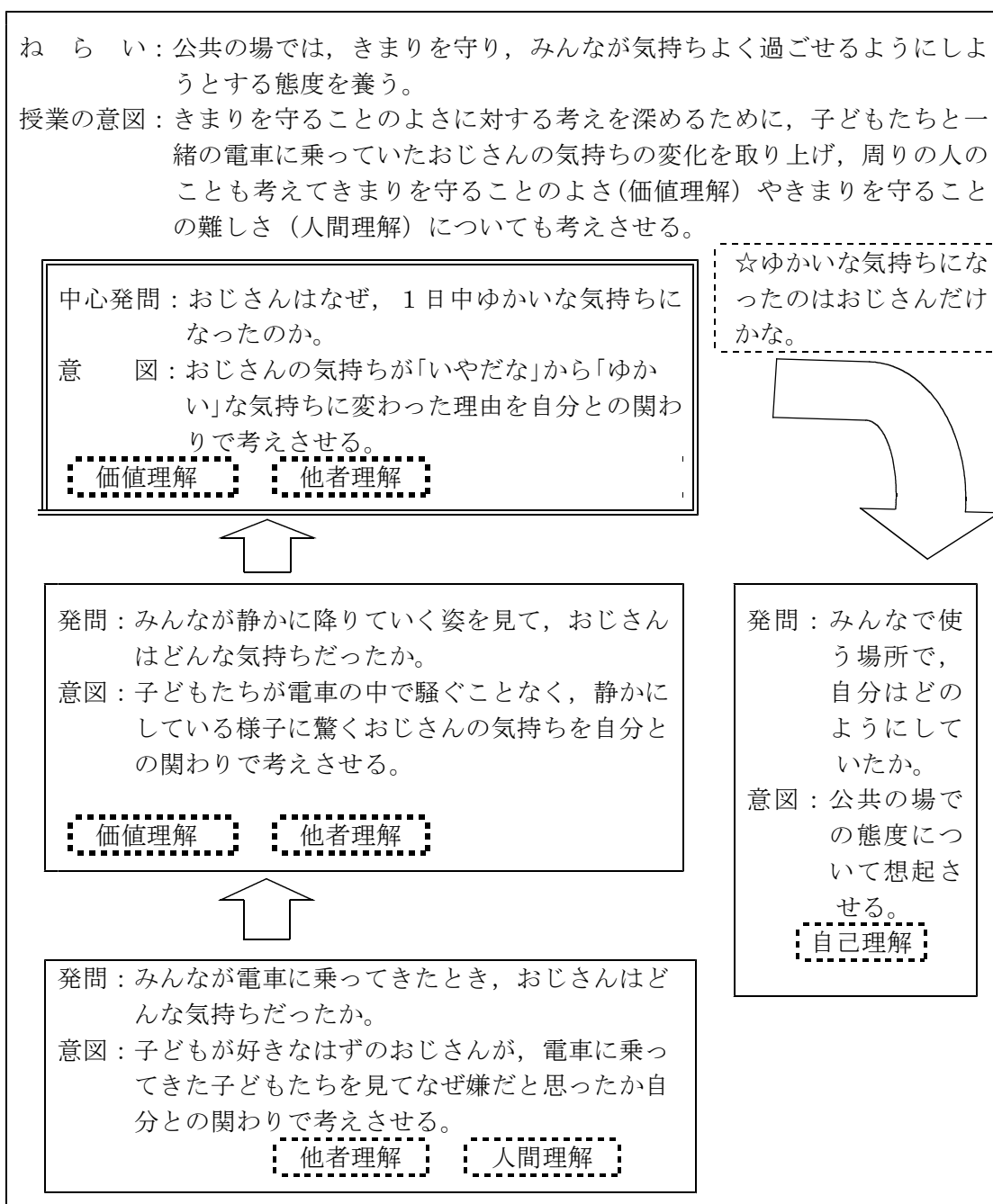
(3) 学習指導過程

	学習活動(主な発問)	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点(・)評価(◆)
課題をつかむ	1. 公共の場にはどんなきまりがあるか発表する。 (どんなきまりがあるかな。)	・廊下は走らない ・授業で出歩かない ・静かにする ・スリッパをそろえる	3分	・きまりを確認することで、ねらいとする価値への方向付けをする。
価	2. 資料「おじさんのてがみ」を読んで話し合う。 (1)子どもたちが電車に乗ってきたときのおじさんの気持ちを考える。 (みんなが電車に乗ってきたとき、おじさんはどんな気持ちだったでしょう。)	・うるさくなりそうだな。 ・いやだな。 ・遠足かな。 【他者理解】 【人間理解】		・手紙を読みながら場面絵を提示し、資料への興味・関心を喚起する。 ・子どもが好きなはずのおじさんが、電車に乗ってきた子どもたちを見て嫌だと思ったことを表情カードを使って押さえ、理由について考えさせる。

<p>価値を追求する</p>	<p>(2) 静かに降りていく子どもたちを見ているおじさんの気持ちを考える。 (みんなが静かに降りていく姿を見て、おじさんはどんな気持ちだったでしょうか。)</p> <p>(3) その日1日中、ゆかいな気持ちになったおじさんの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうしておじさんは「いやだな」が「ゆかい」になったのかな。</p> </div> <p>☆ ゆかいな気持ちになったのはおじさんだけかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静かに乗っていてえらかったな。 ・ 「いやだな」と思っ てはずかしいな。 ・ 立派だな。 <p>【価値理解】 【他者理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うるさくなかったから。 ・ 子どもたちが約束を守っていたから。 ・ みんなが明るい顔だったから。 ・ 電車に乗っていた他の人たちもここにこ していたから。 <p>【価値理解】 【他者理解】</p>	<p>27分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが騒ぐことなく、公共の場で静かにしている様子に驚くおじさんの気持ちを表情カードを使って押さえる。 ・ おじさんの気持ちに変化した理由を考えさせることにより、約束やきまりを守ることが周りの人もいい気持ちにさせることに気付かせる。 ・ 表情カードを振り返ることでおじさんの気持ちの変化を視覚的に捉えさせる。 ・ 挿絵を使うことでおじさんの「ゆかい」な表情は、おじさん以外の乗客の気持ちや、子どもたちを称賛する気持ちの表れであることに気付かせる。 ・ よい行為が、他の人にもよい影響を与えたことに気付かせる。 ◆ おじさんの気持ちに変化した理由を考えさせることにより、約束やきまりを守ることが周りの人もいい気持ちにさせることに気付くことができたか。 (発表・つぶやき)
<p>価値を内面的に自覚</p>	<p>3. これまでの自分を振り返る。 (今までみんなで使う場所で、自分はどうのようにしていたかな。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室を使うとき周りの人の迷惑にならないように静かにしている。 ・ 公園に行ったとき、ブランコに乗りたくて順番を守らなかった。 <p>【自己理解】</p>	<p>15分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返る前に、みんなで使う場所や物について、交通機関以外へも範囲を広げておくようにする。 ・ 児童が思いつかないような場合、いくつか事例や場面を挙げてからワークシートに書かせ、何人かに発表させる。

<p>する</p>	<p>4. 校長先生からの手紙を聞く。</p>	<p>【価値理解】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を基に本時を振り返り，自分との関わりの中で公共の場での態度について自覚させる。 ・ワークシートに書かせることで児童一人一人の価値の内面化を図る。 ◆公共の場において自分がどのようにしてきたか振り返ることで，きまりを守ることについて自分自身との関わりで考え，思いや課題を培うことができたか。 (発表・ワークシート) ・校長先生からの手紙を聞くことで，実践への意欲化を図る。
-----------	-------------------------	---------------	---

6. 資料分析図



7. 授業記録 (T : 教師 C : 児童)

T : なんではじめは「いやだな」と思っていたおじさんの気持ちが、「ゆかいだな」いい気持ちだになら変わったんだろうね。(中心発問)

気持ちを考えさせる際、表情カードを使うことで、子どもたちが視覚的におじさんの気持ちの変化を捉えやすくした。

C1 : 子どもたちが静かだったから。

C2 : 子どもたちがうるさくなくて、乗っているお客さんたちの迷惑にならなかったから。

- T：乗っているお客さん？おじさんじゃなくて？
- C 2：そう。他のお客さん。
- C 3：おじさん以外だ。
- T：そうか。電車だから他にもお客さんは乗っているよね。
- C 4：おじさんの隣のお客さんは、はじめ笑ってなかったけど、子どもたちが降りて行く時には笑ってたから、他のお客さんにも迷惑じゃなかった。
- T：そう。このお客さんのはじめの表情と降りて行った時の表情を比べてみて。
- C 5：あんまり笑ってないのが、笑顔になった。
- T：はじめは「いやだな」「うるさそうだな」と思ってたのが、「うれしいな」「いい子だな」に変わってるんですね。この気持ちの変化を矢印で表すとしたら・・・
- C 5：上。
- C 6：上向き。アップ。
- T：アップしたのはどんな気持ち？
- C 7：うれしい気持ち。



一中略一

8. 板書



9. 成果と課題 (○成果 ●課題)

【課題をつかむ】

- 生活科とのつながりで廊下や黒板横のホワイトボードに「公共の場」を掲示してあったのを子どもたちがよく見ていて、事前の工夫になっていた。

【価値を追求する】

- 表情カードを選ばせ、理由を聞いたことで、おじさんや子どもたちの気持ちの変化に気づくことができた。
- 表情カードは気持ちの変化を視覚的に捉えるのにとっても有効であったため、振り返ることが簡単であった。
- 挿絵のおじさんや他のお客さんの表情を拡大したことが、価値に迫るための有効な手立てとなっていた。
- 構造的な板書となっており、工夫されていた。
- 表情カードの種類をもう少し限定したほうがよかった。

【価値を内面的に自覚する】

- 終末に、校長先生からのお手紙を紹介したことで、自分たちのこととして捉え、実践への意欲付けができた。